

## 幼児の仲間への働きかけと遊び場面との関連

松井 愛奈<sup>1</sup>

幼児の仲間への働きかけと遊び場面との関連を検討した。幼稚園で3歳児から3年間、ビデオによる自由遊び場面の自然観察をおこない、観察対象園の遊びとしてよく見られ、仲間との相互作用の開始場面も多く生じた5場面を比較した。区画/コーナー遊びは他と区切られた場所で、ごっこ遊びがおこなわれることが多い。遊びの展開状況をすぐに理解することは難しく、参加には役が必要である。4歳児で遊び内容に沿った働きかけは少なく、明示的仲間入りが多かった。組み立て遊びでは材料の運び出しや組み立てによりメンバーの出入りが多く、ごっこ遊びが並行していることも多い。4歳児で注意のひきつけ、明示的仲間入りが多かった。砂遊びはオープンスペースで砂や水を使う活動であり、3歳児で呼びかけ、自分の活動提示、相手が必要なものを与えるなど暗黙的な働きかけが多かった。躍動遊びは動的な活動であり、3, 4歳児で仲間と同じような動きにより入っていくことが多かった。ルール遊びには一定のルールや順序があり、4, 5歳児で明示的仲間入りが多かった。幼稚園で特徴的な場面において幼児がどのようにして集まり、相互作用を開始しているのかを捉えることができた。

キーワード：相互作用の開始, 遊び, 方略, 幼稚園児

### 問題と目的

幼児はどのようにして仲間と相互作用を開始するのだろうか。遊び集団への参加としてこれまで多くの仲間入り研究がおこなわれてきた。仲間入り方略の種類 (Corsaro, 1979; Forbes, Katz, Paul & Lubin, 1982; Holmberg, 1980; Shugar & Bokus, 1986), 成功率 (Corsaro, 1981, 1985; Garvey, 1984; 倉持・無藤, 1991; Putallaz & Wasserman, 1989; 植田・無藤, 1990), 社会的地位 (Black & Hazen, 1990; Putallaz & Gottman, 1981a; 1981b) や友達関係 (Sawyer, 1997; Shibasaka, 1988) との関連, 性差 (Black & Hazen, 1990; Forbes et al., 1982; Sawyer, 1997), 遊び集団への参加と統合という2段階から遊び集団側と仲間入り側の情報伝達の様子 (倉持, 1994) が検討されている。また, 遊び集団への仲間入り場面のようにある特定の場面に限定することなく, 幼児の自由遊び場面全体を対象にして, 仲間との相互作用のきっかけを明示的・暗黙的双方の側面から捉えた研究 (松井, 1998; 松井・無藤, 1999) もある。

これらの研究においては, 幼稚園内の環境的要因が仲間への働きかけに及ぼす影響は考慮されていない。しかし, 幼児は周囲の環境に, 質的, 量的に異なるやり方で関わっており, 物の量, 型, 配置 (Phyfe-Perkins, 1980), 人数, 空間要因 (Shugar & Bokus, 1986) は幼児の

行動に影響を与えていることが指摘されている。仙田 (1998) は, 幼児施設で幼児の滞留行動が起りやすい場所について, 高所 (高いところで幼児の視線が変わるところ), 別所 (平面的であっても区画され, 他の部分から差別化されたところ), 閉所 (囲われて閉鎖的な場所) を挙げ, その装置の種類, 位置, 規模によって滞留行動が異なることを述べている。遊びのカリキュラム開発の立場からは, 遊びの種類をいくつかに分類し, それぞれの遊び内容に応じた遊び道具の種類や配置, 保育者の役割, 年齢差, またそれらの遊びを通してどのような情緒的, 社会的, 認知的発達が促されるのかについて検討されている (Carton & Allen, 1999; Wolfgang & Wolfgang, 1999)。

このように周囲の環境が幼児の行動に影響を与え, そこで展開される遊び内容が異なるのであれば, 遊びの種類や, 遊びのおこなわれている場所の物理的環境要因といった遊び場面の特徴により, 仲間への働きかけは異なるのではないだろうか。この点については, ごっこ遊び場面への仲間入りの分析 (Sawyer, 1997) の中で, 仲間への働きかけと, 進行中の遊びの枠組みや演じている役との関連を見出すことができるが, それ以外の遊び場面の検討はほとんどない。しかし, 自然場面においておこなわれる遊びは単一ではない。さまざまな遊びが展開され, 遊び場面によって幼児の仲間への働きかけや相互作用が異なるのであれば, それに対する援助の仕方も異なるであろう。したがって, 遊び場面の特徴は幼児の仲間への働きかけにどのように影

<sup>1</sup> お茶の水女子大学人間文化研究科  
manam@ma.newweb.ne.jp

響を及ぼしているのかを解明することは、仲間との相互作用に対して、遊び場面に応じた援助をおこなう上で役立つ視点を提供するだろう。

また、仲間への働きかけを取り上げる際、これまでの仲間入り研究に顕著であるように、一緒に遊ぼうという意図が明確なものや、遊び集団への参加を前提としたものだけでは不十分である。なぜなら、幼児は何か目をひくようなことや面白そうなできごとが起こればすぐにふるまいを変えてしまい (Corsaro, 1985; 氏家, 1996), ある遊びを始めても終始それに没頭しているわけではない。周囲の人の動き, 声, 音に気を取られたり, その時進行している遊びとは関係のないことをおこなったりすることもある。そしてその際、一緒に遊んでいる仲間とは別の幼児と一時的であれ相互作用が生じたり, もともと一緒に遊ぶ意図はなかった働きかけから, 長時間に渡る相互作用が成立したりすることもある。したがって, 暗黙的に仲間との相互作用を求めているものや, 一時的な相互作用に終わってしまう可能性のあるもの, 進行中の遊びに無関係のものまで幅広く含めて仲間への働きかけを取り上げる必要がある。このように幅広く考慮に入れてはじめて, 自然場面における幼児の仲間への働きかけを捉えることができると言えるだろう。

本研究では, 幼児の自由遊び場面の自然観察をおこない, 仲間への働きかけと遊び場面との関連を示すことを目的とする。その際, まず自由遊び場面全てを対象にして, 明示的, 暗黙的双方の側面から仲間への働きかけが生じる場面を取り上げる。なお, 「明示的」とは「相手とやり取りをしたいことが直接的に言葉で言い表されているため, それが字義通りに解釈でき, 明確である」, 「暗黙的」とは「直接的ではなく, 間接的, 婉曲的に表現されている。非言語的に身振りで表されているものも含む」とする。そして働きかける相手の遊び場면을分類した後, 観察対象園の遊びとして多く見られ, 仲間への働きかけも多く生じた遊び場面について比較検討をおこなう。そうすることによって, 遊び場面の特徴は仲間への働きかけにどのように影響を及ぼしているのか, 幼稚園で特徴的な遊び場面において幼児がどのようにして集まり, 相互作用を開始しているのかを捉えることができる。保育において, 仲間との相互作用を促す遊び場면을構成するための有効な手がかりとなるだろう。

遊び場面の分類については, 時間, 場, 物は遊びの外郭を決める (中沢, 1996), 遊びの特性は動き, ふりにある (本田, 1996), 保育における遊びにはイメージ優先

のものとルール優先のものがある (森上, 1996) ことを参考にする。時間は自由遊び場면을対象にするため共通である。場については空間を構成する閉鎖性と開放性 (環境デザイン研究会, 1998; 仙田, 1998), 物については可塑性の有無, 動きについては静と動からさらに分類できるだろう。

遊びの形態は多種多様であり, 同じ物や空間を用いたからといって展開されるやり取りが同じというわけではない。しかし, それぞれの遊び場面には上記各要素の頻度の高い組み合わせを見出すことができ, それらはそれぞれの場面における相互作用の質や, その場面に接近するときのやり方に影響を与えているだろう。本研究では, 働きかける相手の遊び場면을14場面(区画/コーナー遊び, 組み立て遊び, 砂遊び, 躍動遊び, ルール遊び, 三輪車, プランコ, 鉄棒/うんてい, 平均台, 登り綱, 制作活動, 小積み木/小ブロック, 草花/虫集め, その他)に分類した。そのうち以下の5場面を取りあげて比較検討する。場の閉鎖性が高いものとして「区画/コーナー遊び」, 物自体に可塑性はないが組み立てることが必要なものとして「組み立て遊び」, 可塑性の高い砂や水を使うものとして「砂遊び」, 動きの動的なものとして「躍動遊び」, ルールの優先するものとして「ルール遊び」である。なお, これらの遊び場面は全年齢において仲間との相互作用の開始場面が生じた共通の上位6位に入っている。

また, 暗黙的な働きかけをおこないやすい遊び場面には以下のような特徴が挙げられるだろう。「オープンスペースで周りから接近しやすく, 何をしているのか把握しやすい」「その遊び場面に必要な物は遊びに参加していない者にも手に入りやすい, あるいは持ち運びできる」「その遊び場面で主要な役割を果たしているのは身体の動きである」ということである。

遊び場面別に仲間への働きかけを比較すると, 以下のことが予測される。なお, 「質問」は相手が何をしているのか説明を求めるものであり, しかも相互作用はルーティン的な側面を持つが, 相手とその後も相互作用をしたいのかどうかは明確に表れていない。本研究では「質問」を明示的方略と暗黙的方略の中間に位置するものとし, 仲間への働きかけ方略として分析をおこなうが, 予測には含めない。また, 仲間との相互作用成立において, 2, 3歳期までは模倣 (Eckerman, Davis & Didow, 1989; Eckerman & Stein, 1990; Uzgiris, 1991) が, その後次第に意味のある言葉 (Holmberg, 1980) が重要な役割を果たすようになる。仲間との相互作用の開始場面においても, 3歳児から4歳児にかけて仲間の模倣は減り, 相手の活動や自分に関連した暗黙的な働

きかけが増加することが見出されている(松井, 1998; 松井・無藤, 1999)。模倣は乳幼児でも可能であるが、模倣以外の暗黙的な方略を用いるには、相手の活動内容を見極めることや、言語発達とともにさまざまな表現ができるようになること(Bruner, 1983)が必要である。したがって、「模倣」は暗黙的な方略の一種とするが、年齢の変化を考慮するため、別個に取り出して検討した。

(1)「区画／コーナー遊び」はままごとコーナーなど区切られた場所でおこなわれ、周りから遊びの展開状況をすぐに把握することは難しい。明示的な仲間入りが多く、相手の活動に関連した暗黙的な働きかけは少ないだろう。(2)「組み立て遊び」では大型積み木などを使って組み立てがおこなわれている。組み立てに必要な材料を持っていけば受け入れられる可能性が高く、組み立て材料を運ぶなど相手の活動に関連した暗黙的な働きかけが多いだろう。(3)「砂遊び」はどこからでも声をかけ、入ることのできるオープンスペースでおこなわれている。そのため、遊びに参加しなくとも仲間へ働きかけやすく、呼びかけや自分に注意をひきつけるような暗黙的な働きかけが多いだろう。また、主に砂や水を使って何かを作ることがおこなわれているため、そこで必要な砂や水を持っていくなど相手の活動に関連した暗黙的な働きかけも多いだろう。(4)「躍動遊び」はオープンスペースで、走る、とびはねるなどの動的な場面である。体の動きが重要な要素であり、仲間の模倣や、活動に関連した行動によって暗黙的に参加することが多く、明示的な仲間入りは少ないだろう。(5)「ルール遊び」にはルールや順序があり、端から見てルール遊びをしていることは分かりやすい。ルールに沿って遊びに参加できるよう明示的な仲間入りが多いだろう。

なお、予測としては全年齢にあてはまると想定しているが、遊び内容や遊び方には年齢によって変化があり、仲間への働きかけと遊び場面との関連において年齢差が見出される点もありうる。本研究では年齢別の分析をおこない、各年齢でどのような特徴が見られるかについては探索的に検討していく。

## 方 法

**対象児** 都内私立幼稚園、3歳児1クラス8名(男4, 女4; 観察開始時平均月齢45.7ヶ月; レンジ40-51ヶ月)。4歳児クラス進級時は、進級児は6名(男4, 女2; 途中女児2名が転出, 女児1名が転入・転出)、新入園児は8名(男3, 女5)を合わせて14名(男7, 女7; 観察開始時平均月齢53.7ヶ月; レンジ48-59ヶ月)。5歳児クラス進級時は、新入園児(男

2, 女1)を合わせて17名(男9, 女8; 観察開始時平均月齢62.1ヶ月; レンジ61-71ヶ月)。この幼稚園はクラスの枠にとらわれない、遊びを中心とした保育を実施しており、3, 4, 5歳児クラスが各1クラスで、全園児数は各年度とも約45名であった。

**観察時期** 1996年7月～1999年3月。観察頻度は1週間に1～2回、1ヶ月に4～6回程度。3歳児(1996.7～1997.3)、4歳児(1997.4～1998.3)、5歳児(1998.4～1999.3)である。

**手続き** 保育に参加しない「観察者」の立場を取り、VTR撮影による自由遊び場面の自然観察をおこなった。分析はVTRに撮影された、仲間との相互作用の開始場面を持った全ての幼児の行動を対象としているが、方法としては以下のように観察児を選出して観察をおこなった。3歳児は月齢の最も高い子、低い子を男女各1名、合計4名、4歳児は8名(3歳時における観察児男女各1名含む)である。4歳進級時に新入園児を迎えてクラスの人数が増加したため、4歳児における観察児の選出は、園長と協議の上選出した。(1)仲間とよく遊べる子2名、(2)保育者に依存的な子1名、(3)仲間の活動をこわしてしまう、感情の起伏がはげしいなどにより、保育者、観察者ともに気になる子2名、(4)(1)～(3)のどれにも該当しない子3名とし、観察児を追えばクラス全員がVTRに撮影され、その日の様子が把握できるよう考慮した。5歳児は4歳児にひき続き同じ幼児を対象児とした。3歳児では遊びの切れ目が明瞭ではないため、1日1人を登園からお弁当前まで継続的に撮影した。4歳児、5歳児では、遊びが構造化して30分でも把握しやすくなり、逆に1日1人の幼児のみであると、クラス全体が把握できないため、遊びの切れ目で中断する形で、1日1人30分×4人=120分撮影した。総観察時間は160時間30分(1人あたりの観察時間の年齢別レンジ: 3歳児; 430-660分, 4歳児; 490-560分, 5歳児; 308-345分)であった。

**分析方法** 仲間との相互作用の開始場面が生起する部分の言語的音声と動作を詳しく記録した後、仲間への働きかけをTABLE 1に示す6方略に分類した。方略の分類における信頼性は、分析対象となったデータの20%(308)を用いて筆者と1名の評定者間でおこない、一致率は $\kappa = .93$ で、不一致部分は協議の上で調整をした。そして働きかける相手が、TABLE 2に示す5つの遊び場面にいる際、どのような方略を用いて相手に働きかけるのかについて分散分析を用いて検討した。なお、「仲間との相互作用の開始場面」について、以下のような操作的定義をおこなう。(1)ある幼児が1人以上

TABLE 1 仲間への働きかけ方略

|       |  |
|-------|--|
| ●自分   | 自分の活動へ相手を誘う。自分に相手をひきつける。   |
| (1)明示 | 明示的に、相手を自分の活動や新たな活動へ誘う。<br>例) 積み木を組み立てている子が「(積み木)一緒にやろう。」<br>「一緒に遊ぼう。」   |
| (2)暗黙 | 暗黙的に、相手を進行中の自分の活動、新たな活動へ誘う。自分の活動の提示。<br>自分に注意をひきつける。おしゃべり。呼びかけ。あいさつ。<br>例) お店屋さんごっこをしている子が、「いらっしゃいませ。」と店員の役で声をかける。土だんごを見せる。<br>「昨日、〇〇へ行った。」と話しかける。 仲間の背後から抱きつく。<br>「プランコしよう」ではなく、「プランコあいてるよ。」<br>「〇〇ちゃん。」「おはよう。」 |
| ●相手   | 相手の活動へ働きかける。   |
| (3)明示 | 明示的に相手の活動への仲間入りを求める。<br>例) 「いれて。」  |
| (4)暗黙 | 相手の活動に関連した行動で、暗黙的に相手の活動へ参加する。<br>例) 大型ブロックの組み立てへ、そこで必要なブロックを運ぶことで参加する。   |
| (5)質問 | 相手のしていることを質問する。<br>例) 「何してるの?」   |
| (6)模倣 | 相手の動きを模倣したり、相手について行ったりする。<br>例) とびはねている仲間のまねをしてついて行く。  |
| 1)    | 明示的：相手とやり取りをしたいことが直接的に言葉で言い表されているため、それが字義通りに解釈でき、明確である。  |
| 2)    | 暗黙的：直接的ではなく、間接的、婉曲的に表現されている。非言語的に身振りで表されているものも含む。  |

TABLE 2 遊び場面の分類

|           |   |
|-----------|---|
| 区画/コーナー遊び | ままごとコーナー、すべり台、ジャングルジム、園庭に備え付けのテーブル、倉庫前に置かれている台<br>・園に備え付けで、組み立ての必要なし<br>・他の遊び場面と区切られた「高所・別所・閉所」 |
| 組み立て遊び    | 大型積み木、大型ブロック、パークロス (大型組み立て棒)<br>・組み立て材料の運び出しと組み立て   |
| 砂遊び       | 砂場、土だんご作り、砂集め、砂や水を使った活動<br>・オープンスペース  |
| 躍動遊び      | しばしば軽快なリズムを持つ言葉や笑いを伴いながら、大きな体の動き、走る、とびはねる、身体接触のある躍動的な活動<br>・オープンスペース                            |
| ルール遊び     | 鬼ごっこ、ドッジボール、野球、相撲などルールや順番待ちのある活動<br>・活動エリアの境界は明確  |

の幼児と新たに関わりを持とうとし、言語的、非言語的を問わず仲間に向けられた働きかけをおこなう場面である。したがって、働きかけには活動している幼児の集団に加わろうとする、1人の幼児によってなされる試み(いわゆる仲間入り)に限らず、他の子を自分の活動へ誘い入れようとする試み、および、一時的なやり取りに終わる可能性もある、あいさつや呼びかけ等も含む。(2)仲間への働きかけをした際、仲間から拒否される、または反応が得られず、再び働きかけを試みる

場合、同じ方略を繰り返しても、その試みは新たな別の試みと捉える。

## 結 果

仲間への働きかけと遊び場面との関連を検討するため、各年齢において、遊び場面別に方略(6)についての1要因分散分析をおこなった。下位検定にはScheffe法を用いた。本研究は、観察児だけではなく、クラス全員の個人別使用方略の生起数を出した後、全方略生起数の特に低い幼児4名(3歳児1名、5歳児3名)を除外して分析したものである。分析対象児(3歳児7名、4歳児14名、5歳児14名)は、3歳児、4歳児、5歳児で、2年間または3年間重複している幼児と、1年間のみである幼児がいるが、本研究は年齢間ではなく、年齢別に分析をおこなうため支障はないと考えた。また、分析対象となった幼児について、各遊び場面における使用方略の生起数の割合はおおむね一致していることを確認した上で、個人別の方略平均生起数を用いている。

なお、本研究では「仲間への働きかけをした際、仲間から拒否される、または反応が得られず、再び働きかけを試みる場合、同じ方略を繰り返しても、その試みは新たな別の試みと捉える」としている。そのため仲間拒否される方略を繰り返し用いた場合、その方略の生起数が不当に多くなる可能性や、その方略が遊び場面の特徴と関連がない可能性がある。一方、仲間承認された方略は大半がその遊び場面に適合したものと考えてよいだろう。そこで、各遊び場面における使用方略に対する相手の反応(承認、拒否、反応なし)を分類し、相手のすべての反応を含めた場合(分析1)と、相手に承認された場合(分析2)の分析をおこなう。これら2つの分析結果を比較し、ある遊び場面で使用されやすい方略とその方略の承認されやすさの検討をおこなう。

### 分析1 相手のすべての反応を含めた場合

各年齢における、遊び場面別使用方略の平均生起数と標準偏差(相手のすべての反応を含めた場合)はTABLE 3に示す。

(1)3歳児 遊び場面ごとに方略(6)(ただし、生起数ゼロの方略は統計対象外)についての1要因分散分析をおこなった結果、砂遊び、躍動遊びで方略の差が有意であり( $F(5,36)=5.82, p<.01$ ;  $F(4,30)=17.20, p<.01$ )、下位検定の結果、以下のことが見出された。砂遊びで「自分/暗黙」が「自分/明示」「相手/明示」「質問」「模倣」より多かった。躍動遊びで、「相手/暗黙」と「模倣」に差はなく、それらが「自分/暗黙」「相手/明示」「質問」より多かった。

**TABLE 3** 各年齢における、遊び場面別使用方略の平均生起数と標準偏差 (相手のすべての反応を含めた場合)

|     |    | 遊び場面別使用方略 |    |        |      |      |      |       |      |       |       |      |      |      |      |      |      |
|-----|----|-----------|----|--------|------|------|------|-------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|
|     |    | 区画/コーナー遊び |    | 組み立て遊び |      | 砂遊び  |      | 躍動遊び  |      | ルール遊び |       |      |      |      |      |      |      |
|     |    | N         | M  | SD     | M    | SD   | M    | SD    | M    | SD    | M     | SD   |      |      |      |      |      |
| 3歳児 | 自分 | 明示        | 7  | 0.57   | 0.98 | 0.71 | 0.49 | 1.29  | b    | 1.80  | 0.00  | 0.00 | 0.86 | 1.57 |      |      |      |
|     |    | 暗黙        | 7  | 1.29   | 1.89 | 5.00 | 6.38 | 17.57 | a    | 16.24 | 0.14  | b    | 0.38 | 1.43 | 1.90 |      |      |
|     | 相手 | 明示        | 7  | 3.00   | 1.63 | 4.71 | 5.74 | 1.29  | b    | 1.11  | 0.43  | b    | 0.79 | 0.57 | 0.53 |      |      |
|     |    | 暗黙        | 7  | 1.29   | 1.60 | 6.86 | 5.37 | 11.00 | 8.00 | 2.86  | a     | 2.34 | 1.57 | 1.51 |      |      |      |
|     |    | 質問        | 7  | 2.57   | 2.23 | 1.86 | 1.57 | 2.71  | b    | 2.36  | 0.29  | b    | 0.49 | 0.14 | 0.38 |      |      |
|     |    | 模倣        | 7  | 0.86   | 0.69 | 0.43 | 0.53 | 1.29  | b    | 1.89  | 4.71  | a    | 1.38 | 0.86 | 0.38 |      |      |
| 4歳児 | 自分 | 明示        | 14 | 0.29   | b,d  | 0.73 | 0.07 | b     | 0.27 | 0.57  | 0.94  | 0.00 | 0.00 | 0.07 | b    | 0.26 |      |
|     |    | 暗黙        | 14 | 4.07   | a    | 3.22 | 2.64 | 2.65  | 7.29 | 10.16 | 1.00  | 1.66 | 1.07 | 1.27 |      |      |      |
|     | 相手 | 明示        | 14 | 5.64   | c    | 3.54 | 2.71 | a     | 2.87 | 2.00  | 2.18  | 0.14 | b    | 0.36 | 2.79 | a    | 3.38 |
|     |    | 暗黙        | 14 | 2.36   | d    | 2.65 | 1.79 | 2.64  | 8.50 | a     | 10.91 | 2.14 | a    | 2.07 | 1.50 | 1.79 |      |
|     |    | 質問        | 14 | 1.29   | d    | 1.86 | 0.79 | 1.42  | 2.43 | 3.92  | 0.29  | b    | 0.83 | 0.07 | b    | 0.27 |      |
|     |    | 模倣        | 14 | 0.14   | b,d  | 0.36 | 0.00 | 0.00  | 0.14 | b     | 0.36  | 0.43 | b    | 1.09 | 0.07 | b    | 0.27 |
| 5歳児 | 自分 | 明示        | 14 | 0.36   | 1.08 | 0.43 | 1.34 | 0.14  | 0.36 | 0.07  | 0.27  | 0.07 | b    | 0.27 |      |      |      |
|     |    | 暗黙        | 14 | 1.14   | 1.88 | 1.29 | 2.73 | 1.57  | 2.74 | 0.50  | 0.85  | 0.50 | b    | 1.61 |      |      |      |
|     | 相手 | 明示        | 14 | 0.36   | 0.74 | 1.07 | 1.33 | 0.07  | 0.27 | 0.21  | 0.58  | 4.86 | a    | 3.94 |      |      |      |
|     |    | 暗黙        | 14 | 0.07   | 0.27 | 1.00 | 1.24 | 0.50  | 0.65 | 0.29  | 0.83  | 0.36 | b    | 0.74 |      |      |      |
|     |    | 質問        | 14 | 0.14   | 0.36 | 1.07 | 1.38 | 0.64  | 0.74 | 0.14  | 0.53  | 0.14 | b    | 0.36 |      |      |      |
|     |    | 模倣        | 14 | 0.00   | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 0.00 | 0.50  | 1.87  | 0.00 | 0.00 |      |      |      |      |

注 a, b, c, d: 下位検定の結果有意差あり。a>b, c>d

(2) 4歳児 遊び場面ごとに方略(6) (ただし、生起数ゼロの方略は統計対象外) についての1要因分散分析をおこなった結果、すべての遊び場面 (区画/コーナー遊び, 組み立て遊び, 砂遊び, 躍動遊び, ルール遊び) において、方略の差が有意であった (F(5,78)=11.87, p<.01; F(4,65)=3.87, p<.01; F(5,78)=4.32, p<.01; F(4,65)=5.18, p<.01; F(5,78)=6.12; p<.01)。下位検定の結果、以下のことが見出された。区画/コーナー遊びで、「自分/暗黙」が「自分/明示」「模倣」より多かった。「相手/明示」が「自分/明示」「相手/暗黙」「質問」「模倣」より多かった。組み立て遊びで、「相手/明示」が「自分/明示」より多かった。砂遊びで、「相手/暗黙」が「模倣」より多かった。躍動遊びで、「相手/暗黙」が「相手/明示」「質問」「模倣」より多かった。ルール遊びで、「相手/明示」が「自分/明示」「質問」「模倣」より多かった。

(3) 5歳児 遊び場面ごとに方略(6) (ただし、生起数ゼロの方略は統計対象外) についての1要因分散分析をおこなった結果、ルール遊びで方略の差が有意であり (F(4,65)=15.75, p<.01), 下位検定の結果、「相手/明示」が他の方略より多かった。

**分析2 相手に承認された場合**

各年齢における、遊び場面別使用方略の平均生起数と標準偏差 (相手に承認された場合) は TABLE 4 に示す。

(1) 3歳児 遊び場面ごとに方略(6) (ただし、生起数ゼロの方略は統計対象外) についての1要因分散分析をおこなった結果、砂遊び, 躍動遊びで方略の差が有意であり (F(4,30)=7.58, p<.01; F(4,30)=4.60, p<.01), 下位検定の

**TABLE 4** 各年齢における、遊び場面別使用方略の平均生起数と標準偏差 (相手に承認された場合)

|     |    | 遊び場面別使用方略 |    |        |      |      |      |      |      |       |      |      |      |      |      |      |      |
|-----|----|-----------|----|--------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
|     |    | 区画/コーナー遊び |    | 組み立て遊び |      | 砂遊び  |      | 躍動遊び |      | ルール遊び |      |      |      |      |      |      |      |
|     |    | N         | M  | SD     | M    | SD   | M    | SD   | M    | SD    | M    | SD   |      |      |      |      |      |
| 3歳児 | 自分 | 明示        | 7  | 0.14   | 0.38 | 0.14 | 0.38 | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 0.14 | 0.38 |      |      |      |      |      |
|     |    | 暗黙        | 7  | 0.43   | 0.79 | 1.71 | 1.60 | 8.00 | a    | 5.23  | 0.14 | b    | 0.38 | 0.00 | 0.00 |      |      |
|     | 相手 | 明示        | 7  | 1.57   | 0.98 | 2.57 | 2.82 | 0.86 | b    | 0.69  | 0.43 | 0.79 | 0.00 | 0.00 |      |      |      |
|     |    | 暗黙        | 7  | 0.29   | 0.49 | 2.57 | 1.62 | 5.14 | 5.05 | 1.57  | a    | 1.27 | 0.57 | 0.79 |      |      |      |
|     |    | 質問        | 7  | 1.43   | 1.27 | 0.71 | 0.76 | 0.86 | b    | 0.90  | 0.14 | b    | 0.38 | 0.14 | 0.38 |      |      |
|     |    | 模倣        | 7  | 0.29   | 0.49 | 0.00 | 0.00 | 0.14 | b    | 0.38  | 0.29 | 0.49 | 0.00 | 0.00 |      |      |      |
| 4歳児 | 自分 | 明示        | 14 | 0.00   | 0.00 | 0.07 | b    | 0.27 | 0.43 | 0.65  | 0.00 | 0.00 | 0.07 | b    | 0.27 |      |      |
|     |    | 暗黙        | 14 | 2.00   | 1.71 | 1.50 | a    | 1.40 | 3.29 | 4.27  | 0.50 | 1.16 | 0.29 | b    | 0.47 |      |      |
|     | 相手 | 明示        | 14 | 3.71   | a    | 2.13 | 1.64 | a    | 1.50 | 1.21  | 1.37 | 0.14 | b    | 0.36 | 2.21 | a    | 2.26 |
|     |    | 暗黙        | 14 | 1.57   | b    | 2.59 | 0.86 | 0.95 | 2.93 | 3.56  | 1.29 | a    | 1.33 | 0.93 | 1.38 |      |      |
|     |    | 質問        | 14 | 0.57   | b    | 0.94 | 0.57 | 0.94 | 1.07 | 1.54  | 0.00 | 0.00 | 0.07 | b    | 0.27 |      |      |
|     |    | 模倣        | 14 | 0.07   | b    | 0.27 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 0.07 | b    | 0.27 | 0.07 | b    | 0.27 |      |
| 5歳児 | 自分 | 明示        | 14 | 0.00   | 0.00 | 0.07 | 0.27 | 0.14 | 0.36 | 0.00  | 0.00 | 0.07 | b    | 0.27 |      |      |      |
|     |    | 暗黙        | 14 | 1.00   | 1.71 | 0.64 | 1.60 | 0.71 | 0.91 | 0.29  | 0.47 | 0.14 | b    | 0.53 |      |      |      |
|     | 相手 | 明示        | 14 | 0.36   | 0.74 | 0.79 | 1.05 | 0.07 | 0.27 | 0.14  | 0.36 | 4.21 | a    | 3.36 |      |      |      |
|     |    | 暗黙        | 14 | 0.07   | 0.27 | 0.50 | 0.65 | 0.50 | 0.65 | 0.14  | 0.36 | 0.14 | b    | 0.36 |      |      |      |
|     |    | 質問        | 14 | 0.14   | 0.36 | 0.86 | 1.10 | 0.43 | 0.51 | 0.07  | 0.27 | 0.14 | b    | 0.36 |      |      |      |
|     |    | 模倣        | 14 | 0.00   | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |      |      |      |

注 a, b: 下位検定の結果有意差あり。a>b

結果、以下のことが見出された。砂遊びで「自分/暗黙」が「相手/明示」「質問」「模倣」より多かった。躍動遊びで、「相手/暗黙」が「自分/暗黙」「質問」より多かった。

(2) 4歳児 遊び場面ごとに方略(6) (ただし、生起数ゼロの方略は統計対象外) についての1要因分散分析をおこなった結果、区画/コーナー遊び, 組み立て遊び, 躍動遊び, ルール遊びで方略の差が有意であった (F(4,65)=9.28, p<.01; F(4,65)=4.92, p<.01; F(3,52)=5.24, p<.01; F(5,78)=8.23, p<.01)。下位検定の結果、以下のことが見出された。区画/コーナー遊びで、「相手/明示」が「相手/暗黙」「質問」「模倣」より多かった。組み立て遊びで、「自分/暗黙」と「相手/明示」に差はなく、それらが「自分/明示」より多かった。躍動遊びで、「相手/暗黙」が「相手/明示」「模倣」より多かった。ルール遊びで、「相手/明示」が「自分/明示」「自分/暗黙」「質問」「模倣」より多かった。

(3) 5歳児 遊び場面ごとに方略(6) (ただし、生起数ゼロの方略は統計対象外) についての1要因分散分析をおこなった結果、ルール遊びで方略の差が有意であり (F(4,65)=19.71, p<.01), 下位検定の結果、「相手/明示」が他の方略より多かった。

**分析1 と分析2 の比較**

分析1 (相手のすべての反応を含めた場合) と、分析2 (相手に承認された場合) を比較し、同じ結果と異なる結果をまとめ、異なる結果については予測(1)~(5)との関連から検討する。

(1) 3歳児 区画/コーナー遊び, 組み立て遊び, 砂遊

び、ルール遊びでは同じ結果であった。躍動遊びで、分析1、分析2ともに、「相手/暗黙」が「自分/暗黙」「質問」より多かった。分析1では「相手/暗黙」と「模倣」に差がなく、それらが「相手/明示」より多かった。このことは予測(4)を支持する。

(2)4歳児 躍動遊びでは同じ結果であった。区画/コーナー遊びで、分析1、分析2ともに「相手/明示」が「相手/暗黙」「質問」「模倣」より多かった。分析1では「自分/暗黙」も「自分/明示」より多かった。このことは予測(1)でふれていない結果である。組み立て遊びで、分析1、分析2ともに「相手/明示」が「自分/明示」より多かった。分析2では「自分/暗黙」も「自分/明示」より多かった。このことは予測(2)でふれていない結果である。砂遊びで、分析1では「相手/暗黙」が「模倣」より多かったが、分析2では方略間に差はなかった。このことは予測(3)に関係しない。ルール遊びで、分析1、分析2ともに、「相手/明示」が「自分/明示」「質問」「模倣」より多かった。分析2では、「相手/明示」が「自分/暗黙」より多いことも見出された。このことは、より強く予測(5)を支持する。

(3)5歳児 全ての遊びにおいて同じ結果であった。

## 考 察

仲間への働きかけと遊び場面との関連を検討した結果、遊び場面の特徴により、仲間への働きかけが異なることを見出された。また、多くおこなう遊びや仲間への働きかけにおいて年齢的变化も見られ、それらが仲間への働きかけと遊び場面との関連に影響を及ぼしていた。特に5歳児においては、分析1、分析2を通じて全般的に自分/暗黙方略が多く、お互いに知り合ってきたことの影響が考えられる。つまり、幼児は物を契機とする遊びから、人間関係を重視する遊びへと移行し(高橋, 1984)、一緒に遊びたい仲間が生まれる(Ladd, Prince & Hart, 1990; 高橋, 1984; 才賀・渡辺, 1994)。その仲間の注意を自分にひきつけることが増加したと考えられる。

使用方略に対して「相手のすべての反応を含めた場合(分析1)」と「相手に承認された場合(分析2)」を検討し、双方の比較をおこなった。4歳児の区画/コーナー遊びの分析1、組み立て遊びの分析2で、「自分暗黙」が「自分明示」より多いことを見出された。どちらも予測でふれていない結果であったが、まず、「自分明示」の生起数が非常に低かったことが影響していると考えられる。働きかける相手がすでに遊んでいる状態であったため、自分と一緒に活動しようと明示的に

誘うことが少なかったことがその一因であろう。また、それぞれ遊び場面の影響も考えられる。これについては、遊び場面ごとの記述でふれる。

以上の2点の他は、双方で大半の結果が一致しており、差が見出される点についても予測に反するものではなかった。ある遊び場面で使用されやすい方略はその遊び場面の特徴を反映しているため、遊び場面に適合した方略となる可能性が高く、承認される方略と差がなかったと考えられる。このことは、遊び場面の特徴が仲間への働きかけに影響を及ぼしていることをより強く確認する結果である。以下、遊び場面ごとにまとめる。

(1)区画/コーナー遊び 4歳児で予測(1)を支持し、明示的な仲間入りが多く、相手の活動に関連した暗黙的な働きかけは明示的な仲間入りより少なかった。「高所」「別所」「閉所」で、幼児の滞留行動が起り、人の流れが規制されている(仙田, 1998)。そこではごっこ遊びがおこなわれていることが多いが、他の遊び場面と区切られており、遊びの進行状況をすぐに理解することは難しい。その遊びに参加するには、進行中のテーマを知り、自分の役を決める必要がある。したがって、いきなり何かの役を演じながらごっこ遊びの中に入っていくなど、相手の活動に関連した暗黙的な働きかけをすることは難しく、明示的に仲間入りを求めることが多いと考えられる。また、そのような閉鎖的な空間でごっこ遊びをしている仲間に対して、明示的に自分と活動するよう誘うことも難しいと考えられる。

3歳児、5歳児では使用方略に差はなかった。3歳児では年長児と比べて「いれて」という幼稚園の仲間入りルールが定着していないこと(松井・無藤, 1999)、5歳児では上述したようにお互いに知り合ってきたことの影響が考えられる。

(2)組み立て遊び 4歳児で、自分に関連した暗黙的な働きかけ、明示的な仲間入りが多く、3歳児、5歳児では方略間に差はなく、予測(2)を支持しない結果、および予測でふれていない結果が見出された。組み立てで作られる空間は閉鎖的であり、ごっこは他の活動の中に浸透していく性質をもっている(加用, 1998)。組み立てるだけではなく、ごっこ遊びが並行しておこなわれていることも多かった(組み立て遊びをおこないながら、「役」や「ごっこ遊びのテーマ」について一言も言及されない事例は観察されなかった)。したがって、進行中の遊びの枠組みに沿って参加するために明示的に仲間入りを求めることが多かったと考えられる。またこの遊び場面は、拠点となる場所はあるものの、組み立て材料の運びだし

や組み立てが行われ、メンバーの出入りや移動も多い。そのような仲間に対して、自分の活動の提示、注意のひきつけによって、相互作用が生じることも多いと考えられる。

(3)砂遊び 3歳児で予測(3)を支持し、呼びかけや自分の活動の提示、相手が必要な砂や水を与えるなど暗黙的な働きかけが多かった。砂遊びは、相手のじゃまをしなければ誰でもすぐそばまで近寄り、どこからでも声をかけることのできるオープンスペースで、主に砂や水を使って何かを作ることがおこなわれている。ひとつの砂場内に複数のグループがいることは珍しくなく、そのメンバーに属していなくても砂場へ入っていくことができる。3歳児後半に土だんご作りが盛んになったが(保育者との話より)、だんご作りをしているなら、活動エリアの境界はなおさら不明確である。水でだんごを湿らせる、園庭のいろいろな場所の砂をかけるなど、移動もしばしば見られる。このような場面では、仲間の遊びに参加しなくとも、呼びかける、自分の活動を相手に示すなどにより、仲間と関わりを持つことができると考えられる。また、この場面におけるごっこ遊びでは、砂や水、草花を使って料理を作る、作ったものを並べてお店屋さんごっこをすることが多く、砂や水など相手の必要なものを持っていく、客として参加するなど相手の活動に関連した暗黙的な働きかけが多かった。

4歳児で相手の活動に関連した働きかけが模倣より多く、5歳児では方略間に差はなく、予測(3)を支持しなかった。4歳児では「いれて」という仲間入りルールを多く使用するようになり(松井・無藤, 1999)、「いれて」と言ったかどうか確認することも観察された。そのため、明示的な仲間入りと相手の活動に関連した暗黙的な働きかけ、および明示的な仲間入りと自分に関連した暗黙的な働きかけとの間に差がなかったのであろう。5歳児では砂遊び自体が減少した(保育者との話より)ことが予測(3)を支持しなかった一因であろう。

(4)躍動遊び 3歳児、4歳児で予測(4)を支持し、仲間と同じような体の動きや声によって自然に相手の活動へ入っていくことが多く、明示的な仲間入りは少なかった。広がりや自由であるという感覚と密接に結びついており、そのような空間で子どもは喜んであちこちと走り回るものである(イーファー, 1993; 仙田, 1998)。走ることは心を軽くし、開放し、リズムはそれを助ける(津守, 1997)。お互いの発声と身体のリズムが深いレベルで共鳴しあい、一体化しているという感覚も生じる(麻生, 1998)。しばしば軽快なリズムを持つ言葉や笑い

を伴いながら、大きな体の動き、走る、飛び跳ねる、身体接触のある躍動的な活動(Pellegrini & Smith, 1998)である。そのような場面では、明示的に仲間入りを求める、自分に注意をひきつける以前に、例えば戦いごっこをしている仲間の前にポーズをして構えるなど仲間と同じような体の動きによって、その中へと自然に引き込まれていくのではないかと考えられる。

特に3歳児においては、2, 3歳期までの仲間との遊びの成立には、模倣が重要な役割を果たしており(Eckerman, Davis & Didow, 1989; Eckerman & Stein, 1990; Uzgiris, 1991)、他の子どもの行動を模倣することによって、数人が同一の行動をとるという同化現象(久保田, 1973)、特定の目的があるわけではなく、ただ皆と一緒に走り回ることを楽しむような状況が見られる(津守, 1980)という見解と一致する。

5歳児では方略間に差はなかった。躍動遊び自体が減少したこと、上述したようにお互いに知り合ってきたことの影響が考えられる。

(5)ルール遊び 4歳児、5歳児で予測(5)を支持し、明示的な仲間入りが多かった。ルール遊びには、順番や鬼の役、ゲームの進め方など、一定のルールや制限、一連の決まった順序があり(Garvey, 1990)、端から見てルール遊びをしていることは分かりやすい。したがって、何をしているのか質問することは少なく、この遊びをしている仲間に働きかける時には、自分もその遊びに参加したい時なのであろう。そのため、自分の活動へ相手を誘うのではなく、暗黙的な働きかけによって何も言わず入り込むのでもなく、ルールに沿って参加できるよう明示的に仲間入りを求めることが多いと考えられる。

3歳児では方略間に差がなかった。3歳児ではまだ形式的なルールに従いながら遊ぶということは少ないため、この遊び場面の影響を受けにくいのであろう。年齢とともにルール遊びをすることが増加し、それに伴って遊び場面と使用方略の関連が強く表れた。

以上、幼稚園で特徴的な遊び場面において、どのようにして幼児が仲間への働きかけ、相互作用が生まれているのかを捉えることができた。遊び場面によって仲間への働きかけは異なり、仲間への働きかけと遊び場面との関連の仕方やその度合いには年齢差も見られた。仲間との相互作用を援助する際、遊び場面の特徴や年齢差を考慮しておこなう必要性を示唆したと言える。そして、保育において年齢に応じたさまざまな遊び場面を構成し、仲間との相互作用を促す上で遊び場面に応じた援助をおこなうための有効な手がかりとなるだ

ろう。

本研究では仲間への働きかけ方略の検討をおこなったが、その後どのような仲間とのやり取りが展開されたのかという点、即興的に変化していく遊びの展開状況と照らし合わせて考えるという点については今後の課題として残される。また、今回分析対象外とした場面や、仲間への働きかけにおける個人差についても検討の余地がある。

### 引用文献

- 麻生 武 1998 なぜ大人は子どもと遊ぶのか 麻生武・綿巻徹(編) 遊びという謎 ミネルヴァ書房 Pp.35—61.
- Black, B., & Hazen, N.L. 1990 Social status and patterns of communication in acquainted and unacquainted preschool children. *Developmental Psychology*, **26**, 379—387.
- Bruner, J.S. 1983 *Child's talk-learning to use language*. New York : Oxford University Press.
- Carton, C.E., & Allen, J. 1999 *Early childhood curriculum* : Second Edition. New Jersey : Prentice Hall.
- Corsaro, W.A. 1979 "We're friends, right ?" : Children's use of access rituals in a nursery school. *Language in Society*, **8**, 315—336.
- Corsaro, W.A. 1981 Friendship in the nursery school : Social organization in a peer environment. In S.R. Asher & J.M. Gottman (Eds.), *The development of children's friendships*. New York : Cambridge University Press. Pp. 207—241.
- Corsaro, W.A. 1985 *Friendships and peer culture in the early years*. Norwood, NJ : Ablex Publishing Corporation.
- Eckerman, C.O., Davis, C.C., & Didow, S.M. 1989 Toddler's emerging ways of achieving social coordinations with a peer. *Child Development*, **60**, 440—453.
- Eckerman, C.O., & Stein, M.R. 1990 How imitation begets imitation and toddler's generation of games. *Developmental Psychology*, **26**, 370—378.
- Forbes, D.L., Katz, M.M., Paul, B., & Lubin, D. 1982 Children's plans for joining play : An analysis of structure and function. In D. Forbes & M.T. Greenberg (Eds.), *New directions for child development : Children's planning strategies*. San Francisco : Jossey Bass. Pp.61—79.
- Garvey, C. 1984 *Children's talk*. Cambridge, MA : Harvard University Press.
- Garvey, C. 1990 *Play*. Cambridge, MA : Harvard University Press.
- Holmberg, M.C. 1980 The development of social interchange patterns from 12 to 42 months. *Child Development*, **51**, 448—456.
- 本田和子 1996 「遊び」と「子ども」の二重奏—伝統的社会から近代産業化社会への移行の中で 高橋たまき・中沢和子・森上史朗(共編) 遊びの発達学 基礎編 培風館 Pp.82—99.
- イーファー・トゥアン 山本 浩(訳) 1993 空間の経験—身体から都市へ 筑摩書房
- 環境デザイン研究会(編) 1998 環境デザイン 体験・風土から建築・都市へ 学芸出版社
- 加用文男 1998 遊びに生きる子どもの多重世界 麻生 武・綿巻 徹(編) 遊びという謎 ミネルヴァ書房 Pp.35—61.
- 久保田浩 1973 あそびの誕生 誠文堂
- 倉持清美・無藤 隆 1991 幼稚園の仲間入り—2 日本発達心理学会第2回大会論文集, 155.
- 倉持清美 1994 就学前児の遊び集団への仲間入り過程 発達心理学研究, **5**, 137—144.
- Ladd, G.W., Prince, J.M., & Hart, C.H. 1990 Preschooler's behavioral orientations and patterns of peer contact : Predictive of peer status? In S.R. Asher & J.D. Coie (Eds.), *Peer rejection in childhood*. New York : Cambridge University Press. Pp.90—115.
- 松井愛奈 1998 幼児の自由遊び場面における、仲間との相互作用のきっかけ お茶の水女子大学大学院家政学研究科児童学専攻修士論文(未公刊)
- 松井愛奈・無藤 隆 1999 幼児の自由遊び場面における、仲間との相互作用のきっかけ(2) 日本発達心理学会第10回大会論文集, 472
- 森上史朗 1996 幼児の保育における遊び 高橋たまき・中沢和子・森上史朗(共編) 遊びの発達学 展開編 培風館 Pp.153—176.
- 中沢和子 1996 子どもの環境と遊び 高橋たまき・中沢和子・森上史朗(共編) 遊びの発達学 展開編 培風館 Pp.177—202.



- Pellegrini, A.D., & Smith, P.K. 1998 Physical activity play : The nature and function of a neglected aspect of play. *Child Development*, **69**, 577—598.
- Phyfe-Perkins, E. 1980 Children's behavior in preschool settings—A review of research concerning the influence of the physical environment. In L.G. Katz (Ed.), *Current topics in early childhood education* Vol.3. Norwood, NJ: Ablex Pp.91—125.
- Putallaz, M., & Gottman, J.M. 1981a An interactional model of children's entry into peer groups. *Child Development*, **52**, 986—994.
- Putallaz, M., & Gottman, J.M. 1981b Social skills and group acceptance. In S.R. Asher & J.M. Gottman (Eds.), *The development of children's friendships*. New York : Cambridge University Press. Pp.116—149.
- Putallaz, M., & Wasserman, A. 1989 Children's naturalistic entry behavior and sociometric status : A developmental perspective. *Developmental Psychology*, **25**, 297—305.
- 才賀 敬・渡辺弘純 1994 4歳児の遊び 労働旬報社
- Sawyer, R.K. 1997 *Pretend play as improvisation*. Hillsdale, NJ : Lawrence Erlbaum Associates.
- 仙田 満 1998 環境デザインの方法 彰国社
- Shibasaka, H. 1988 The function of friends in preschoolers' lives : At the entrance to the classroom. *Journal of Ethology*, **6**, 21—31.
- Shugar, G.W., & Bokus, B. 1986 Children's discourse and children's activity in the peer situation. In E.C. Mueller & C.R. Cooper (Eds.), *Process and outcome in peer relations*. London: Academic Press. Pp.189—228.
- 高橋たまき 1984 乳幼児の遊び—その発達プロセス 新曜社
- 津守 真 1980 子どもの世界の探究 : 保育の体験と思索 大日本図書
- 津守 真 1997 保育者の地平 ミネルヴァ書房
- 植田清美・無藤 隆 1990 幼稚園における仲間入り 日本発達心理学会第1回大会論文集, 117.
- Uzgiris, Ina. C. 1991 The social context of infant imitation. In M. Lewis & S. Feinman (Eds.), *Social influences and socialization in infancy*. New York : Plenum Press. Pp.216—251.
- 氏家達夫 1996 子どもは気まぐれ ミネルヴァ書房
- Wolfgang, C.H., & Wolfgang, M.E. 1999 *School for young children*. Needham Heights, MA : Allyn and Bacon.

## 謝 辞

観察をさせていただきました目白幼稚園の先生方、園児のみなさんに心より感謝いたします。

ご指導下さいましたお茶の水女子大学無藤隆先生、草稿に対してご助言下さいました会津大学短期大学部高濱裕子先生、東京学芸大学倉持清美先生をはじめ、多くの方々にご協力いただいたことを感謝し、厚く御礼申し上げます。

(2000.7.4 受稿, '01.4.19 受理)

*Initiation of Interactions with Peers in Play :  
A Longitudinal Study of Preschoolers*

MANA MATSUI (GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SCIENCES, OCHANOMIZU UNIVERSITY) JAPANESE JOURNAL OF EDUCATIONAL PSYCHOLOGY, 2001, 49, 285-294

The present study examined preschool children's strategies of initiating interactions with peers in relation to features of play scenes. Preschoolers' (3 years old at the start of the study) free play was observed using a videotape recorder, over a 3-year period. In "separated corner play", pretend play often took place in which ongoing play themes were not easily grasped, and children had to adopt play roles in order to enter. 4-year-olds used few play-implicit strategies appropriate for such play, although they employed many explicit play entries. In "constructive play", play members entered and left the play scene by carrying and constructing materials. Pretend play was going on simultaneously. 4-year-olds engaged others' attention, or attempted explicit entry. In "sand play", which took place in an open space, 3-year-olds tended to use many implicit strategies of calling to peers, presenting their own activities, and providing the necessities for the play. In "bounding motoric play", 3- and 4-year-olds mixed with each other through engaging in similar body movements. "Rule play" had fixed rules or sequences; 4- and 5-year-olds often attempted explicit entry.

Key Words : initiation of peer interaction, play, strategy, preschool children